

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 東 成
学校名 宝栄小学校
学校長名 西畠 寧三

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動をご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 83名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の正答率は全国平均と比較すると、1ポイント下回っている。算数科に関しては、大阪市、全国平均値より約1ポイント上回っている。

国語科においては、全国の値と似た山なりの得点分布で過半数の正答率は6割以上である。思考力、判断力、表現力を問われる問題は、全国平均を上回る正答率だが、言葉の使い方、情報の扱い方を問われる問題の正答率は下回っている。算数科においては、全国平均値より高い値であるが、得点分布は正答率が8割と3割の二極化の傾向がある。

児童質問紙調査からは、「学校に来るのは楽しい」と肯定的に回答する児童の割合が増えており（85.9%）、市平均（82.1%）全国平均（85.3%）より上回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕文章と図表を結び付け必要な情報を見つけることや活用できることを問う選択式の問題で、正答率が低い。一方、読んで理解したことを書く記述式の問題では、正答率が高い。敬語、漢字や送り仮名の正しい使い方を問われる問題は、全国の平均正答率とほぼ変わりはないが、基礎学力の定着にも課題は残る。

〔算数〕記述・選択・短答などの項目をとっても全国平均を上回っている。しかし、図形問題に関しては低い傾向がある。計算を必要としない問題もあり、論理的に問題に取り組めるようにする。また、定義となる算数用語を定着させ、効果的に使えるようにしていく必要がある。

質問紙調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」の問い合わせに肯定的な回答は76.5%である。本校の課題と言わされている自尊感情であり、全国平均値より低い値である。しかし、「友達関係に満足していますか」（91.8%）「人が困っているときは、進んで助けていますか」（92.9%）から、仲間意識を高く持ち学校生活を送っていることがうかがえる。

朝食や睡眠時間などの生活習慣に関する調査では、市の平均との差はあまりみられないものの、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」

（52.9%）は大阪市平均値より10ポイント低い。児童の意識を高め、自分から進んで学習に取り組む態度を育む手立てを講じていく。

今後の取組(アクションプラン)

- ・記憶を知識にするための自由勉強、自主課題を推奨していく。興味関心を導き出すために、新聞の活用や授業の中で効果的に取り組んでいく。
- ・話型掲示、ハンドサインを用いながら話す活動、自分の考えを書く活動を丁寧に行い、考えを周りに発信できる機会を増やす。
- ・手の届きそうな問題、間違い直し等の振り返りでスマールステップを踏みながら、確実な知識を身に着けさせる。

【 全体の概要 】

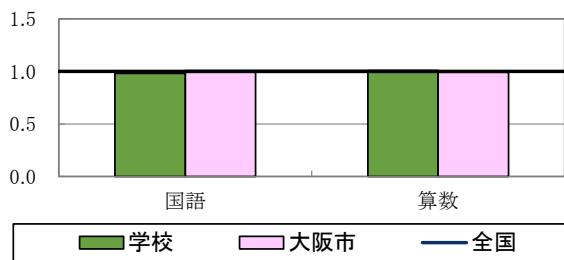
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	66	63
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

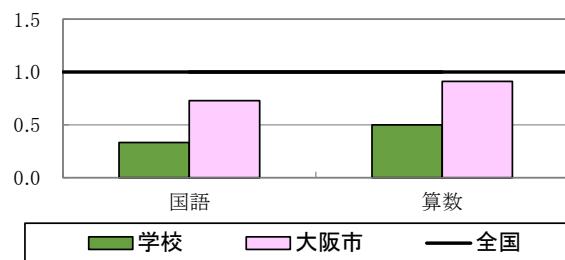
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	1.6	1.7
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



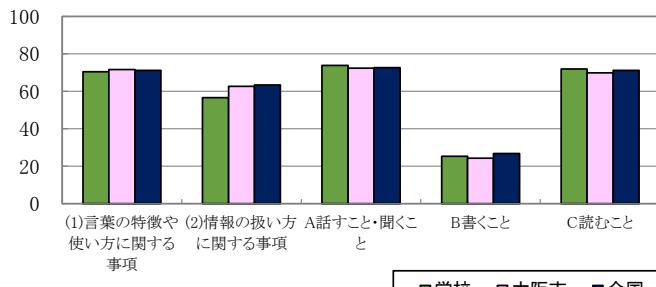
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	70.4	71.7	71.2
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	56.6	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	73.9	72.4	72.6
B 書くこと	1	25.3	24.2	26.7
C 読むこと	3	71.9	69.9	71.2

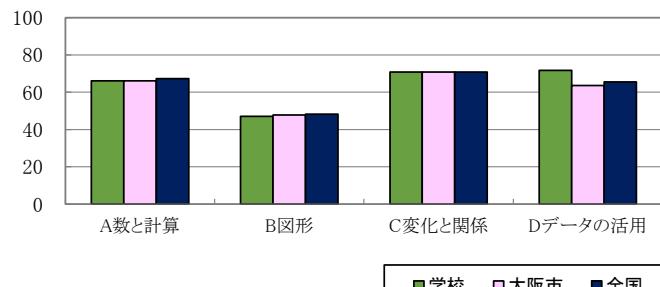
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	66.1	66.1	67.3
B 図形	4	47.0	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	70.8	70.8	70.9
D データの活用	3	71.8	63.6	65.5

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



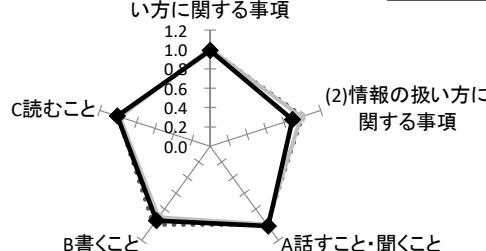
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)

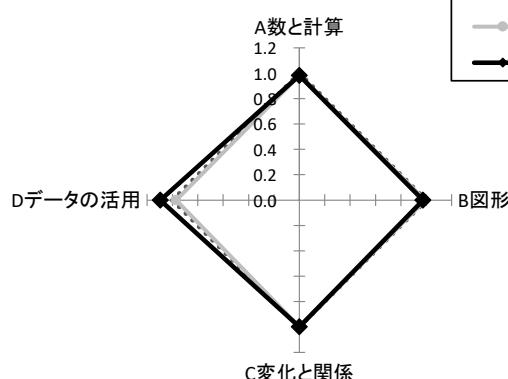
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項

..... 全国
— 大阪市
— 学校



算数 領域別正答率(対全国比)

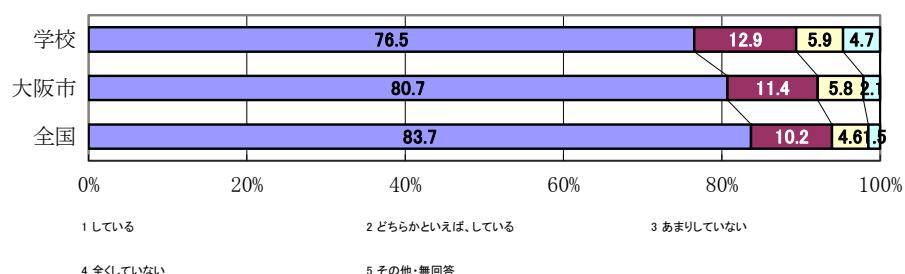
..... 全国
— 大阪市
— 学校



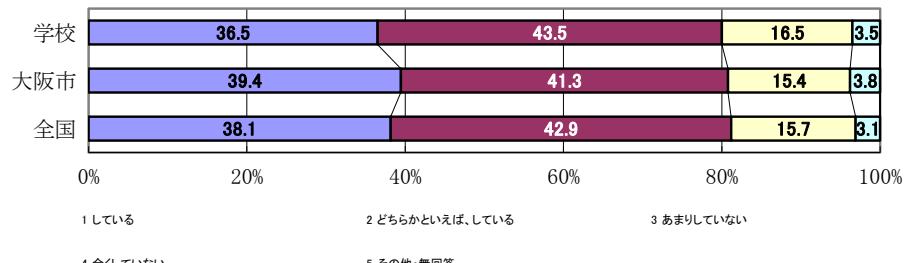
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

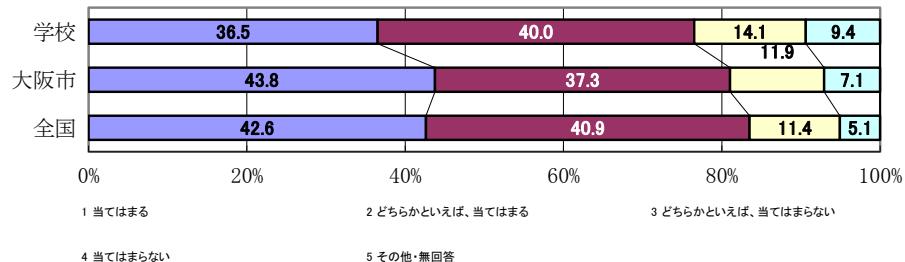
質問番号	
質問事項	
1	
朝食を毎日食べている	



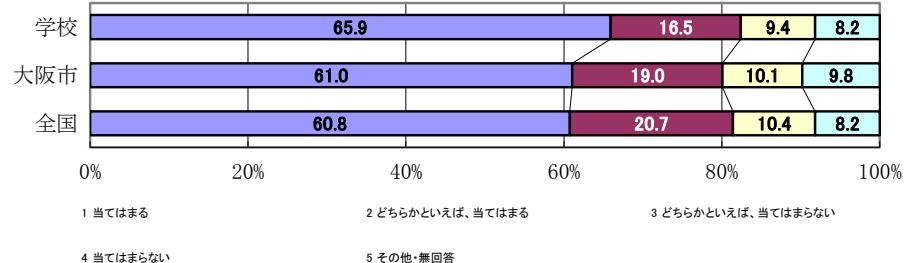
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ている



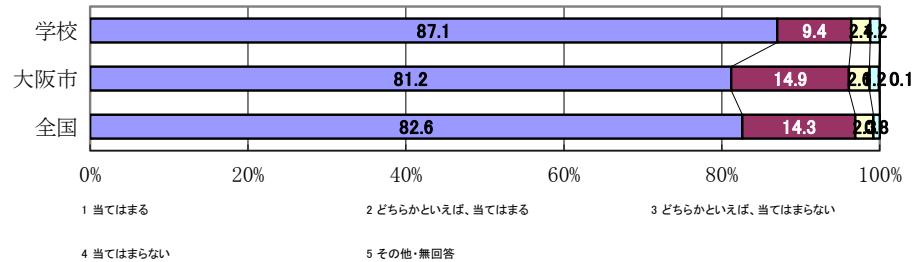
4
自分には、よいところがあると思う



7
将来の夢や目標を持っている



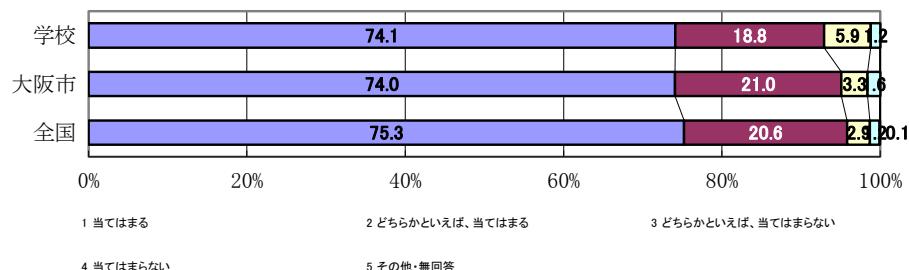
9
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う



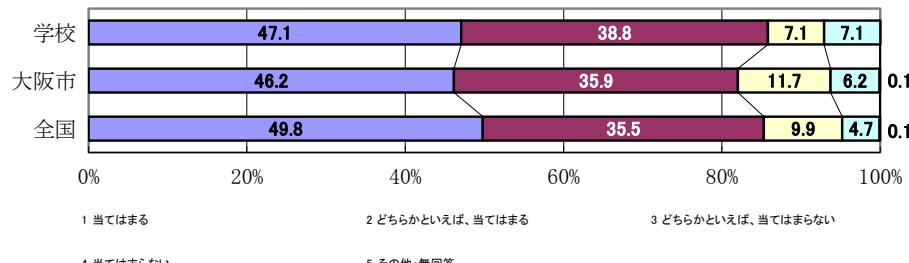
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

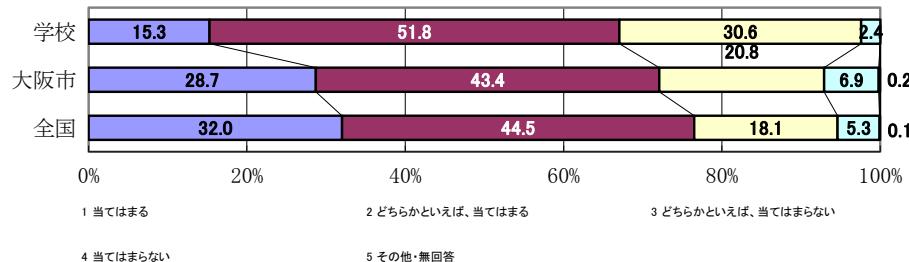
質問番号
質問事項
11
人の役に立つ人間になりたいと思う



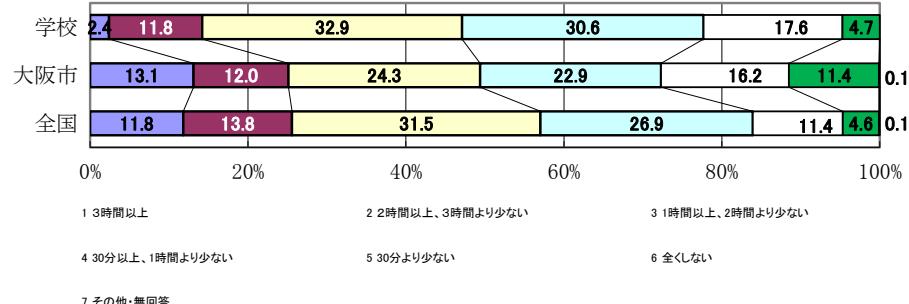
12
学校に行くのは楽しいと思う



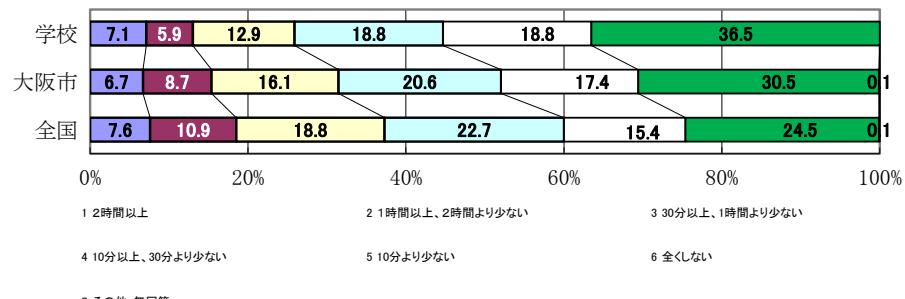
13
自分と違う意見について考えるのは楽しい



17
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)



20
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)



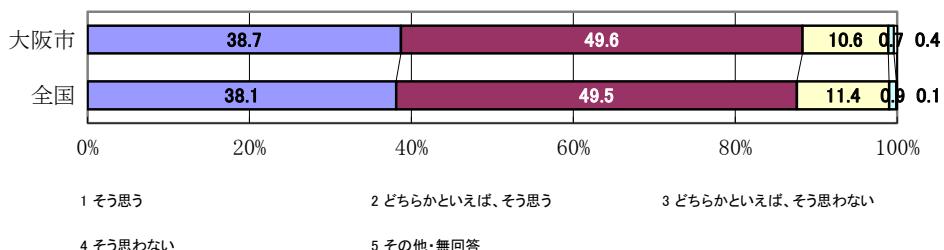
学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項
9

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

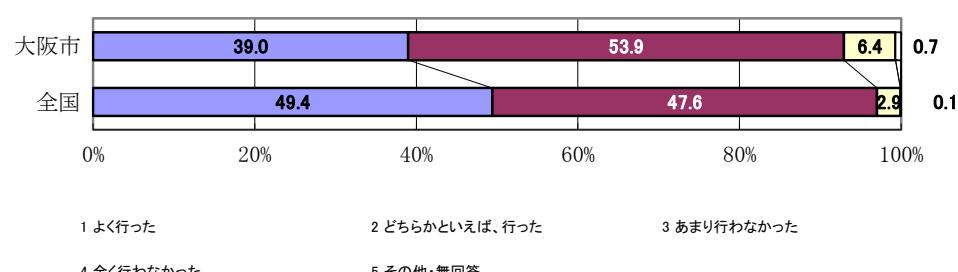
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



12

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

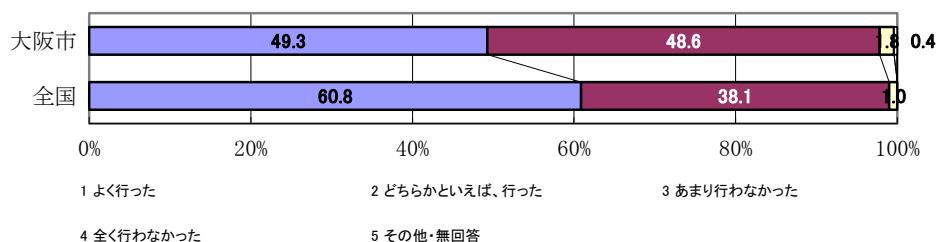
学校 「よく行った」を選択



13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

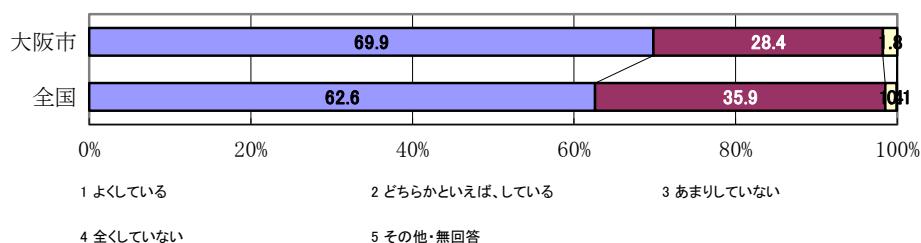
学校 「よく行った」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

学校 「よくしている」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している

学校 「よく行った」を選択

